

# 令和7度 第3回学校運営協議会 記録

- 1 期日 令和8年2月4日(水)午前 10時から 12時まで
- 2 会場 静岡県立浜松視覚特別支援学校 会議室
- 3 参加者

## 学校運営協議会委員

- 静岡大学 准教授 A 氏
- 一般企業 代表取締役 B 氏
- 前浜松市視覚障害者福祉協会会長(本校卒業生) C 氏
- NPO 法人 就労継続支援施設 代表理事 D 氏
- 視能訓練士 E 氏
- 地区自治会長 F 氏
- PTA会長 G 氏

## 本校教職員

- 校長、副校長、幼小部主事、中学部主事、高等部主事、専攻科主任、寮務主任、教務主任、進路指導課長

## 4 内容

- (1) 高等部普通科生徒運営キラリッチカフェ体験
- (2) 全体会
  - ① 校長あいさつ
  - ② 令和7年度学校評価報告
  - ③ 各部から
  - ④ 今年度の進路状況
  - ⑤ 校内コンプライアンス委員会
  - ⑥ 令和8年度学校経営計画
- (3) 閉会
  - ・お礼の言葉(校長)

## 全体会

### ① 校長挨拶

新しい特別支援学校の設立計画と今後の教育環境の変化への対応  
教育現場の改革と課題:

- ・9年度にかけて静岡県内、浜松、磐田市内で新校の開校や分校の設置が計画されている。
- ・学校運営においては「働き方改革」をより一層推進していく方針。
- ・特別支援教育におけるAI(人工知能)の活用など、時代に伴う大きな変化に対応していく。

学校運営が大きな転換期を迎えている。これらの変革に対し、地域や関係者の協力を得ながら、「子供たちの安全・安心」を最優先に確保し、教育の質を維持・向上させていきたい。またセンター的機能としての役割も果たしていきたい。

### ② 令和7年度学校評価(児童生徒、保護者、教職員評価)

資料を参考に副校長から成果と課題について説明

<意見交換>・学校運営協議会委員からの質問、意見、感想等

学校評価の「困った時や不安な時に相談できる体制」に関する報告に対し

(E 氏)：視覚障害がある子供たちが自由に話せる場として、Zoom 上での対話の場所がある。この場は、子供たちが本音で話せる環境を保障するため保護者や先生は絶対に入ってはいけないという厳格なルールで運営されている点が特徴的。子供たちの相談先や交流の場としての選択肢の一つとして考えられる。

学校評価の「地域資源を活用した体験活動」に関する報告に対し

(F 氏)：農家を訪れるなどの地域交流活動において、「時期の選定」が教育的効果を上げられる。

○実りのある時期の選定：9 月に実施された活動では収穫物がほとんどなかったようだ。子供たちが実際に収穫の喜びを味わえるよう、7 月や 11 月などの「実りのある時期」に合わせたい。

○学びとしての時期：子供たちが「いつどのような時期に実るのか」を知ること、重要な学びになるかと思う。

(幼小学部主事)：小学部の活動において、地域農家との触れ合いの場を紹介し、子供たちが地域の方々と温かく交流するきっかけをつくっていただきありがたかった。

また、学校が開催した「防災体験会」に地域の方々と共に参加し、学校の防災学習を支えていただきありがたかった。

(中学部主事)：中学部においても清掃ボランティア活動などの場を提供していただいた。ボランティア活動だけではなく、活動が終わった後もコミュニケーションの場を設けていただき、親密に関わり、学校のことを知ってもらう機会を提供していただいた。

(小学部主事)：葵西地域の方(農家や神社、通行人の方々)との温かい触れ合いがありがたかった。また、一般企業(B 氏)の協力によるさつまいも掘りなど、地域資源を活用した体験活動の場をたくさんいただきありがたかった。

学校評価の「自分の良さや強み」を認識することの難しさと、その課題に対する支援のあり方についてに対し

(D 氏)：自分の良さや強みに気づくのが難しいのは生徒だけでなく、私たち大人も同様。自分が所属する施設も利用者さん達に気づかせる前に職員自身が自分の強みに気づくための研修を行った。

外部専門家の活用も良い：自分自身では気づきにくい強みを客観的に評価してもらうため、心理士などの外部専門家を講師として招き、研修や講話の場を設けるのもいいのではないかと。

・生徒への支援への応用：教職員が取り組んだ「専門家による研修と講話」を、生徒に活用していく。

③各部からの今年度幼児児童生徒のあらわれの紹介

・各部主事から成果と課題について資料を参考に説明

④今年度の進路状況

・進路指導主事から資料を参考に説明

⑤校内コンプライアンス委員会

・令和7年度不祥事根絶に向けた取り組み成果

資料を参考に副校長から説明

⑥令和8年度学校経営計画

資料を参考に校長から説明

閉会

お礼の言葉：校長より

今年度3回目となる協議会で多くの意見が出されたことに感謝。非常に楽しく、笑いのある和やかな雰囲気の中で運営できたことへの感謝。

- ・ 協議会で出された多くの意見を、来年度の学校運営に活かしていきたい。
- ・ 短時間の間にも多くの有益な情報が得られた。今後も、このような場に限らず職員に伝えてほしい。
- ・ 1年間の支援に対して感謝。

全体会前後の学校運営協議会委員との懇談の中で出た意見、感想等

視覚障害教育の専門機関として「社会への発信」を強化し、支援の輪を広げるための多角的なアイデアが提案された。

### ・視覚障害者向けスポーツの提案と普及についての提案

学校という枠を超えて、地域に住む視覚障害者の「QOL(生活の質)の向上」や「社会参加のきっかけづくり」

#### 1. ブラインドスポーツを通じた普及と交流

サウンドテーブルテニス(盲人卓球)、ブラインドテニスやブラインドゴルフなどのスポーツが、視覚障害者の社会参画や活力につながる。

障害の有無にかかわらず楽しめるスポーツを、生徒や社会に広め、社会的な認知度を高めていきたい。

#### 2. YouTube を活用した運動コンテンツの紹介

音だけで動きを説明する YouTube コンテンツの活用。「音による動きの解説」がついた運動動画には高いニーズがあり、それを紹介した際には「ぜひ利用したい」という声が多く上がった。

#### 3. 運動の処方: 視覚に障害を持った際、(初歩として)「スポーツをすること」を『処方箋』として考えてほしい

ある講演会での「視覚障害者になったら、まず初めにスポーツ(運動)をすることを『処方箋』として考えてほしい」という話を聞いた。これは競技スポーツに限らず、「立ったり座ったり」といった日常的な動作も含めた運動を毎日継続することが大切であるという話だった。

### ・大学の取り組みの紹介

静岡大学浜松キャンパスの工学部におけるボランティアサークルの事例の紹介があり内容を共有した。学生や教職員が当事者と触れ合い、点字について学ぶイベントを開催した。こうした地域との繋がりを今後も調整していきたい

### ・社員への還元と働きがいの紹介(B氏より)

公益財団法人社会貢献支援財団から「社会貢献者表彰」を受けた。副賞については、当初は財団に寄付しようと考えていましたが、「社会貢献を支えているのは現場の社員であり、彼らの励みになるように使うべきだ」という財団らの助言を受け、社員のために活用することを決めた。「頑張る人(社員)」をしっかりと認め、その努力に報いることで、「働きがい」と「誇り」を持ってもらいたいと考える。

また浜松視覚の弁論大会は生徒の発表が非常に素晴らしく、勇気をもらえる内容である。自社や地域の会社の人達にも聞いてもらったり、知ってもらいたい。自社での発表の場も設け私たちに元気や勇気をもらいたい。

### ・子どもの進路活動を通じ、広い世界を知る大切さを学んだことの紹介(G氏より)

進路活動のため東京に行き全国から集まった視覚障害者の方と出会った。障害のある若者たちが自ら稼ぎ、自立して生活している様子を聞き「狭い世界にいるのではなく、親も子ももっと広い世界を見なければならぬ」、積極的に社会に出ていき、様々な経験をし、人と出会っていく必要性を感じた。

また地域の方々や学校関係者の温かい支えに触れ、「この学校で学べて良かった」と深い安心感を得ている。しかし、この会議等で話を聞くと視覚障害者は人数が少なく気づかれにくいいため、学校や家庭からもっと積極的に情報を発信し、周囲に知ってもらいたい必要を感じる。